



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第185号 2018 / 12 29 止市

いいとこ取り交通システム MaaS(マーズ)とは

■今年の流行語の一つと言われるMaaS、自動運転の技術のように言われる場合も多く、多くの誤解を呼んでいるようだ。「いいとこ取り交通システム」とも言うべきだ。

MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)

直訳すれば、「移動を第一に考える」。自動車は含まれるものの、むしろ「欲しいのは自動車でなく移動そのものだ」という自動車万能に対立する概念で。まして自動運転車のことではない。

■MaaSが注目されたのは、2014年頃からのフィンランドの動きからである。最新のIT情報システムを使って、電車バスの公共交通機関からタクシー、カーシェアリングなど様々な交通機関をスムーズに乗り継いで便利に使う考えかただ。欧米では自動車の副作用が色々認識され、1980年代からは公共交通の充実が図られてきた。元々公共サービスとして電車バスは大赤字でも維持していくという方向で、運賃では3割程度しか賄えないというのが当たり前の国が多い。

■日本は狭い国土の多くが山脈で、細長い平野に多くの人住む人口密度の極端に高い国だからこそ、むしろ特殊に民間の電車バスが成り立った。従って電車バスを税金で維持しにくくなっている。しかし今や、東京都心や京都市では、バス運転手不足からバス減便が始まっており、岡山でのバスを巡る今年の大騒動も根っこは一緒である。公共交通サービスを維持するには、市町村が積極的に計画的に、道路や自動車との分担を考えた公共交通政策を立案実行していく状況まで来た。

■ラクダ瓦版では、岡山での交通連合の提案や、市町村が一般会計の1%を公共交通維持に使えば、人口減少を止められるとの主張してきた。バス問題で全国から注目される中で、岡山では対立するバス会社の運行データがだれでも使えるオープンデータとして提供され、「公共交通情報最先端都市」とも言われる状況に来ている。

■MaaSを実現するためには、まず電車バスの運行情報が利用者に十分に知らされることが大事だ。鉄道では時刻表が発売されており、ほぼ定時運行で信頼性も高いが、日本のバスは情報面で遅れていた。そこでラクダは1998年から岡山倉敷を中心とした全社を網羅したバスマップを先進的に市民によって作成し、2004年からはバスマップサミットを開催し、毎年全国各地で開催している。今や数百のバスマップが提供されるようになったと言う点では、我々はいわばMaaSの地ならしをしてきた。必要なのは移動の自由そのものであって、便利で安ければ鉄道であろうとバスであろうと、あるいは自動車でも自転車でも徒歩でもいいわけで、ましてどこのバス会社が運行しているかなんて全く関係ない話である。

■しかしバスルートが分かっても時刻表が入手できないこと、乗り継ぎが分からないこと、さらには特に雨の日など自動車渋滞で全く時刻表が当てにならないなど多くの問題があり、効果的な活動にはなっていなかった。これを突破してきたのが情報技術の進歩だ。アメリカではバス情報をGTF Sという世界共通の方式でネット上で情報公開しておけば、世界の誰でもその情報をアプリとして加工できるシステムを開発、グーグルマップ等では加工した情報を見られるようにした。乗り継

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



